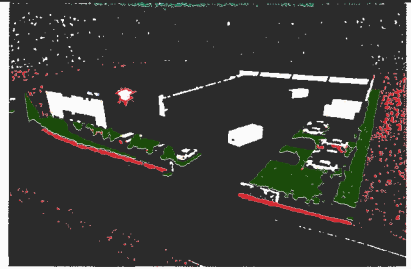


# CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.01)

<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	モリテックス株式会社けいはんなR&Dセンター	階数	地上2F
建設地	京都府相模野郡栗田町西原台9丁目1番15、1番19、元台1丁目2番4	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条地域	平均居住人員	60人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,500時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年11月 予定	評価の実施日	2016年4月28日
敷地面積	6,592 m <sup>2</sup>	作成者	俵元吉
建築面積	3,054 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	3,951 m <sup>2</sup>	確認者	



<b>2-1 建築物の環境効率(BEEランク&amp;チャート)</b>	<b>2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)</b>	<b>2-3 大項目の評価(レーダーチャート)</b>
<p>BEE = 0.9 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>②建築物の取組み 87%</p> <p>③上記+②以外の 87%</p> <p>④上記+ 87%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。</p>	

<b>2-4 中項目の評価(バーチャート)</b>		
<b>Q 環境品質</b>		
<b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア= 2.5 	<b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア= 2.9 	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア= 2.7 
<b>LR 環境負荷低減性</b>		
<b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア= 3.6 	<b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア= 2.6 	<b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア= 2.8 

<b>3 設計上の配慮事項</b>		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
外壁仕上、内装仕上げの耐久性を向上させ、建物外皮の熱負荷制御により省エネルギーに努め、敷地面積の30%以上に緑地を配置することにより、生物環境の保全、景観への配慮、敷地内の温熱環境に配慮した。		0
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
空調設備をゾーニングにより配置、制御することにより温熱環境に配慮した。	1人当たりの執務スペースを多くとり、機能性、使いやすさに配慮した。仕上げ材料の補修必要間隔を多くすることにより、耐用年数の向上に配慮した。	外構緑化を行い、緑の量を確保して、生物環境の保全に配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
建物外皮の熱負荷制御を行い、省エネルギーに配慮した。設備システムの高効率化により、省エネルギーに配慮した。	ODP=0の空調設備機器を使用し、オゾン破壊軽減に配慮した。	光害対策ガイドラインを活用して、良い照明環境に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される